



令和5年度 はぐくむ委員会の活動

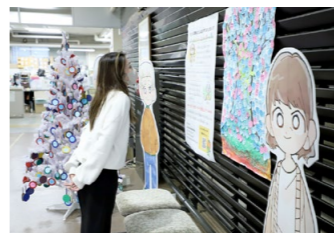
すこやか橋本まなびの日

はぐくむ条例の認知度向上や自治と協働の推進のため、まなびの日でブースを出展し、パネルの展示やアンケート調査（回答519人）などを行いました。

今回は、はぐくむ委員会初の試みとして、市民の皆さんへお手伝いを呼びかけました。当日は、3人に参加していただき、ブースを盛り上げていただきました。

ブースでは「どんな橋本市になってほしいか」を来場者に伺いました。大人が書いたものは果実のように貼り出し、「はぐくむの木」を作成しました。

また、子どもが書いたものは、「はぐくむツリー」としてクリスマスツリーに飾りました。完成した「はぐくむツリー」には、子どもならではのものから大人顔負けのものまで、さまざまな意見があったため、多くの人に見ていただけよう市役所本庁ロビーに期間限定で設置しました。



自治と協働の職員研修

市職員が受講する研修の内容を、はぐくむ委員会が企画しました。研修は、多くの職員に参加いただくために、午前午後の2部制で実施しました。

研修では、さまざまな部署の職員と、はぐくむ委員がワークショップ形式で意見交換をし、協働のまちづくりにおける行政と市民の役割や利点について再確認しました。

はぐくむ条例が施行されて5年、世代に関わらず協働が市職員や市民にもっと浸透していくような工夫や意識づけが必要だと、改めて考える機会となりました。

はぐくむ委員会会議

5月には、5回目の会議を実施しました。はぐくむ委員会では、市内の自治と協働が少しでも広がるよう、全員発言することを大切にしながら、活発に意見交換をしています。傍聴は大歓迎ですので、ぜひお越しください。

はぐくむ委員会の雰囲気を感じること、協働の第一歩を踏み出してみてください。

子ども用パンフレットの作成

はぐくむ委員会では、「協働は大人だけがするものではない」、「協働してまちづくりを進めていくのに年齢は問わない」と考え、子どもを対象としたパンフレットの作成に取り組んでいます。市内の全ての人が「今自分にできること」に取り組むこと、「まちづくりへの参画」と意識できればいいと考えています。

協働に関するアンケート

職員の協働に関する意識や業務内の実績を確認するため、令和3年度から年に1度、全職員を対象にアンケートを実施しています。令和5年度は497件の回答があり、回答率は61.7%でした。項目「協働を市民に広めるためにはどのような方法が考えられると思いますか」では「活動者への地域通貨でのポイント付与」「学校現場での子どもたちへの啓発」などの意見が見られました。

問い合わせ

地域振興室 ☎33-7117



はしもとプラチカの代表に 聞きました！

Q 活動を始めた理由は？

A これまでなにか地域活動をしたかと思っても、どこで何をすればいいのか分からないなど、一歩目を踏み出すのが簡単ではありませんでした。そこで、はしもとプラチカを作り、「協働実践の見える化」「具体的な活動の見える化」を進めることで、そういった人たちに集まってもらえるようにしたかったからです。はしもとプラチカをきっかけに人が気軽に集まり、そこで「話をしたこと」「出会えた人」がいつの間にか「協働」につながっていき、思い活動しています。



Q プラチカってどういう意味？

A 「プラチカ」とは、ポルトガル語で実践という意味です。その名の通り、協働を実践していく団体なので、より実践が広がるようにこの想いを込めてメンバーで決めました。

Q 今後の想いを聞かせてください

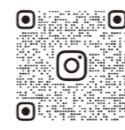
A 「はしもとプラチカ」は、市民が協働の第一歩を踏み出すためのきっかけとなるよう、また、地域活動の拠り所となるよう、気軽に集えるような場の提供（居場所づくり）をしたいと思います。



はしもとプラチカ代表
東 美樹さん



はしもとプラチカについて



はしもとプラチカ
instagram

市内で始まった活動を紹介 2



憩いの場が 橋本駅構内に誕生

ホッと一息ついて
みませんか？



ホッと一む
～かけはし～

「ホッと一むくかけはし」は、駅利用者だけでなく住民の皆さんがホッと一息つけるような場所になることを目的に、地域住民とJR西日本の協働で運営されています。ソファなど設備の設置はJR西日本和歌山支社が実施し、清掃などの維持管理は地域住民で構成された駅ボランティアが実施しています。

「ゆかいな図書館」は、古佐田区民会館「みんなの家」で、7月1日から月1回開催予定です。